

避難の方法

避難情報について



避難準備 情報

- 災害発生の可能性が予想される状態です。
- 非常持出品の準備をはじめましょう。
- 避難が必要と判断される場合は、避難の準備をはじめましょう。

避難勧告

- 災害発生の危険性が高い状態です。
- 避難場所に避難をはじめましょう。

避難指示

- 災害発生の危険性が非常に高い状態、またはすでに被害が発生した状態です。
- 避難中の住民は直ちに避難を完了しましょう。



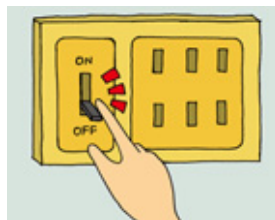
避難する ときの 注意点

避難のときは、
次のことに
気をつけよう！



基本は徒歩で

渋滞を避けるため、徒歩
などで避難しましょう。



必ず切って！

出火防止のため、ガスの
元栓を閉め、電気のブ
レーカーを切りましょう。



長靴は×です！

靴ひものある運動靴をは
きましょう。長靴は、負荷
がかかり、水が入ると脱
げるので危険です。



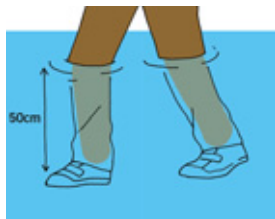
連絡先メモ

連絡がとれなくなったと
きのために、メモなど
行き先をわかるようにし
ておきましょう。



棒で安全確認

水面下にはマンホールな
どの危険があるので、棒
を杖代わりに安全を確認
しながら歩きましょう。



50cmまで

歩行可能な水深は約
50cmです。水深が深い
場合は無理せず高台で助
けを待ちましょう。



安全な道を！

がけ崩れなどの可能性が
あるので、狭い道や堀の
そば、川べりなどは避け
て避難しましょう。

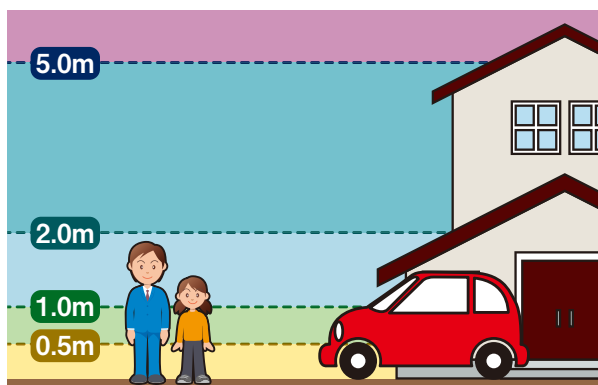
突然の災害には「垂直避難」

時間がない
場合、
高い所へ
避難を!!

夜間や急な降雨で避難路が分かりにくい、ひざ上まで浸水している、水の流れが速いなど危険が切迫している場合は、無理に避難所に行くのではなく、自宅や隣接する建物などへの緊急避難「垂直避難」の方が安全な場合もあります。自宅2階や居住建物の高層階へ避難するなど、少しでも高く、頑丈な場所へ避難しましょう。状況に応じた避難行動を心がけましょう。



浸水深の目安



水 深	水深の目安
5.0m以上	3階までつかる程度
2.0～5.0m未満	2階の軒下までつかる程度
1.0～2.0m未満	1階の軒下までつかる程度
0.5～1.0m未満	大人の腰までつかる程度
0～0.5m未満	大人の膝までつかる程度

水深が0.5mを超えると避難が非常に困難になりますので、早めに避難しましょう。

家族で避難経路を確認しておこう！

まずは自宅や学校、勤め先を地図に書き入れて、災害時に避難が必要な場所かどうかを確認しましょう。また、最寄りの避難場所と安全な避難経路を確認して書き入れましょう。



災害が起こったら

浸水深

浸水域の地面から高さまでのことを言い、洪水が起きる危険性を把握するときの目安になります。